デーリー東北
発行所
デーリー東北新聞社
〒031-8601
八戸市城下一丁目3-12
電話0178(44)5111
振替口座02360-6-4213
©デーリー東北新聞社2003

自民底力 三村氏が初当選

青森県知事選 47歳、県政史上最年少

激戦、横山氏に2万票差

木村守男氏の辞職に伴う出直し青森県知事選は二十九日、投票が行われ、即日開票の結果、新人で前衆院議員の三村申吾氏（47）＝自民、公明、保守新推薦＝が二十九万六千八百二十八票を獲得、新人で弘前学院大教授の横山北斗氏（39）＝民主、自由、社民、無所属の会推薦＝を二万票差でかわし、初当選を飾った。四十七歳での知事就任は県政史上最も若い。同じく無所属新人のNPO法人理事長柏谷弘陽氏（48）、新人で共産党公認の政党役員高柳博明氏（33）は自民対非自民、国政与野党の対立の構図に埋没し、票が伸びなかった。

激戦を制しての初当選に笑顔で支持者に手を振る三村申吾氏。右は三千代夫人＝29日午後11時

三村氏は七月一日に初登庁、新しい三村県政がスタートする。二月末に三選を果たした木村前知事が女性問題で五月に辞職して以来続いた県政の混乱に、ようやく終止符が打たれることになる。

選挙戦は各候補者の出馬表明から投票までほぼ一カ月という超短期決戦となった。

自民など国政与党の支援を受けた三村氏と、民主など野党の支持を取り付けた横山氏の事実上の一騎打ち。三村氏は、政治家としての経験と実績を前面に打ち出した戦いを展開。推薦した自民党が組織をフル回転させ、事実上の党営選挙を繰り広げた。国政与党の衆参国会議員が続々と来青し、業界団体をてこ入れ。地元国会議員も「自分の選挙」並みに動いた。

木村前知事の辞任に至る経緯や、その後の候補者擁立劇で陣営内の足並みが乱れて中盤までもたついたものの、最終盤に猛然と追い上げ、横山氏を土壇場で逆転した。

一月の前回知事選に出馬し約二十三万票を獲得した横山氏は、この実績と知名度を生かして戦った。軽装で選挙戦に臨むなど、候補者自身の人物像を前面に打ち出し、政党や県民協会、連合青森などの支援団体は後方支援に徹した。草の根選挙で無党派層へ浸透。特に津軽地方の都市部から支持を得て戦いを優位に進めたが、三村氏の終盤の激しい追い上げに屈した。票差は二万票と知事選史上最も少なく、まれにみる激戦となった。

柏谷氏は独自のマニフェストを掲げ、純粋無党派を強調。高柳氏は党勢拡大を図ったが、保守同士の争いに埋没した。

いずれも三十─四十代という若い候補者の舌戦に有権者の関心も前回より高まり、投票率は52・46％と、前回を2・78ポイント上回った。

青森県知事選開票結果（選管最終）

	得票数	氏名		年齢	党派
当	296,828	三村	申吾	47	無新
	276,592	横山	北斗	39	無新
	21,709	柏谷	弘陽	48	無新
	19,422	高柳	博明	33	共新

▷有権者数 1,183,937人　▷投 票 率 52.46％

解説

最終盤、組織フル回転

自民、国政選挙に弾み

新しい知事に、県民は自民、公明など国政与党が推す三村申吾氏を選んだ。「公認並み」の党営選挙を展開した自民党にとって、知事選で前面に出て勝利するのは十二年ぶり。終盤まで苦戦が伝えられたが、最後はお家芸の組織力で底力を見せつけた。短期決戦の大一番を制し、次期衆院選や来夏の参院選に弾みをつけた。

半面、政治経験のない横山北斗氏が三村氏を脅かした背景には、旧来の自民型選挙では有権者の心をつかみ切れなくなった実態があろう。自民は勝利におごることなく三村新県政をチェックしていく義務がある。

自民には厳しい条件がそろった戦いだった。一月の前回知事選で二十三万票を獲得した横山氏に対し、三村氏は衆院議員だったとはいえ全県選挙は初めて。知名度で劣勢は免れなかった。

前回、木村守男前知事を推薦した自民が、女性問題を機に辞任に追い込んだという、木村派の複雑な思い。候補者選びでの佐々木誠造青森市長の擁立失敗に、党青森市支部から不満が噴出した。

宿敵だった三村氏を推薦するという分かりにくい擁立劇は陣営内に不協和音を生み、前半はこうした懸念材料の解消に時間を費やした。

山崎拓幹事長ら党三役をはじめ国会議員を大量投入、「国政とのパイプ」を訴えた半面、国会議員の利益誘導発言が逆効果となる場面もあった。

ようやく自慢の組織が機能し始め、先行する横山氏をとらえたのは「最後の二、三日」（高橋弘一党県連筆頭副会長）という形をとった。

一方、三村氏に対し他陣営からは、政党を次々に変わる行動への批判が目立った。今回の選挙は政治家の資質も問われただけに、批判を払しょくできるかどうかは、自身の今後の県政運営の仕方にかかっている。危機的な県財政再建など多くの難題にどう対応するのか。新知事の手腕が問われている。【吉田晃】

三村氏の当確を伝えるニュースにうなだれる横山北斗氏（右から2人目）と支持団体の代表者たち＝29日午後10時45分

非自民勢力

ムード先行 上滑り

県政奪還の好機逸す

「純粋無所属」を掲げ、推薦した非自民系の政党・団体が後方支援に徹するこれまでにない選挙戦を展開した横山北斗氏だったが、自民党の組織力の前にあと一歩及ばなかった。政治色の薄い横山氏を結集軸に一枚岩となった非自民勢力。県政奪還のもくろみが目前で消え去ったことで、今後の国政選挙にも少なからぬ影響を与えそうだ。

一月の知事選に続き、二度目の挑戦となった横山氏。前回約二十三万票を獲得した知名度を生かし、都市部を中心に優位に戦いを進めた。だが、「好感度」のムードが先行して最終盤で上滑り、自民党組織の厚い壁を崩し切れなかった。

今回、横山氏を推薦した県内の主な勢力は県民協会、民主党県連、社民党県連、連合青森。共産党を除く非自民が一堂に集結して支援態勢を築いたのは県政史上初めてのことだった。

国会議員の相次ぐ離脱で退潮ムードの県民協会、党勢拡大に伸び悩む民主党、そして総標の不一致問題を抱える社民党と連合青森。非自民勢力は「勝てる可能性が最も高い」（民主党県連）候補として横山氏を担ぎ、漂う閉そく感の払しょくに期待をかけた。

マスコミ各社の世論調査で横山氏リードが伝えられた翌日の二十四日。「この枠組みは正解だった。衆院選、参院選に弾みがつく」。非自民政党と政治団体の接着役となった連合青森の山本信悦会長は勝利を信じ、勢力拡大に希望を託した。

結果はわずか二万票差の敗北。善戦したとはいえ、非自民は絶好の好機を逸してしまった。自民党が公認並みに支援した三村申吾氏が県政トップに就く現実は、非自民にとってあまりに重い。

今回の推薦団体は今年五月に国政レベル選挙での協力態勢を確認している。知事選の勝利で自民党がさらに勢いづくのは確実で、非自民にとって人材発掘も含め、どう選挙態勢を構築していくか難題が横たわる。

十月には衆院青森2区で統一補選が行われる。自民党は前衆院議員の江渡聡徳氏を擁立する。2区は新知事三村氏の地盤でもある。一度は傾きかけた県民世論の流れを再び引き寄せることができるか、非自民勢力はまさに正念場を迎える。

給付水準は年収50─55％に

04年の年金改正で厚労相表明

物価スライド本年分のみ

【バンコク29日共同】バンコク訪問中の坂口力厚生労働相は二十九日、同行記者団に対し、二〇〇四年の公的年金制度改正の焦点である将来の年金給付水準について、現役世代の年収の50─55％を維持する方針を表明した。

厚労省は保険料の上限を設定し、少子化の進行などに応じて給付水準を徐々に引き下げていく「保険料固定方式」を提案しているが、給付下限のめどとして50％を示したといえる。八月に政府、与党に提示する厚労省の改革案に盛り込む。

本年度から復活した年金物価スライド制を来年度に適用する場合も、引き下げ幅は今年の消費者物価下落率分（〇三年度政府見通し0・4％減）にとどめ、二〇〇〇─〇二年度の凍結分1・7％は適用せず小幅に抑える意向を明らかにした。

これに対し財務省は大幅な給付抑制や物価スライドの凍結分上乗せを求めており、今後、年金財源対策などをめぐる政府、与党内の綱引きが激化するのは必至だ。

厚労相は、現在の年金給付水準59％を将来とも維持することは困難と指摘し、「50─55％くらいは維持しないと、国民の将来の不安につながる。経済が好転し、少子化に歯止めがかかれば、54─55％も夢ではない」と表明。併せて保険料率の上限を年収の20％に設定する考えを重ねて示した。

天鐘

選挙があると飲食店は暇になる、という。変な勘繰りをされないためになじみ客も選挙期間中は足が遠のく、ということらしい▼長引く不況、さらに今年は選挙続きで青森県内の飲食関係者も大変らしい。一月の県知事選に始まって、四月の統一地方選、そして今回の出直し知事選である。三村申吾さんが知事選に出て衆院議員を失職したために衆院青森2区では十月下旬に補欠選挙も行われる▼総選挙もあるかもしれない。小泉首相の決断次第ではあるが、補選前に衆院解散となれば補選はなくて総選挙一回で済むものの、補選の後の解散ならばそれとは別に総選挙が行われる▼選挙にはカネがかかる、といっても立候補者が集める選挙資金の話ではない。つまり今知事選の場合、われわれ県民の税金約八億円をかけて実施されたのだ。「選挙に関心ない。だれが当選したって同じ」などと言っている有権者も、立派に費用を分担しているのである▼八億円の内訳は、有権者に投票を呼びかける啓発ポスターや投票用紙などの印刷代、候補者用ポスター掲示板の製作・設置費、投票所に配置する立会人や職員の人件費など。掲示板だけでも県内に七千カ所以上立てられたから、ざっと一億円かかった▼それだけ手間ひまかけた出直し選挙、三村新知事への県民の期待は当然大きい。危機的な状況にある県財政の立て直しなど早急に取り組むべき課題が山積しており、前途は厳しいだろう。なによりも「県民」に顔を向けた県政運営を忘れないでほしい。

内科・小児科
多賀台診療所
八戸市多賀台四丁目四─三（多賀台小学校裏）☎五二─三三七五

◇旧暦
6月1日・赤口

きょうの紙面

2 20 21 知事選の詳報
3 景観基本法案策定へ
3 大陸棚画定へ調査強化
16 万引防止へ合同研修会
18 「種とばし大会」に沸く
19 消費生活相談1万件超

きょうの天気は3ページに